

曹洞宗には、「食べ物^{ほうよう}を施す会」と書いて施食会(せじきえ)という法要があります。

この法要は、多くのお寺では、七月や八月のお盆の時期に行います。春や秋に行うお寺もあります。ご先祖様の供養の法要として昔から親しまれていますが、なぜ「施食会^{せじきえ}」という法要がご先祖様の供養になるのでしょうか。

「施食会」では、ご本尊様とは別に、施食棚^{せじきだな}という法要のための棚^{もう}を設けて、スイカなどの果物やナスやキュウリといった季節の野菜、蓮^{はす}の葉を敷いた器にきれいなお水やご飯など、地域によって違いはありますが、たくさんの食べ物をお供えして、お花やお灯^{とうみょう}明^たを飾り、お香を焚きます。

その施食棚中央には、「三界萬霊^{さんがいばんれい}」(さんがいばんれい)と書かれたお位牌^{いはい}を安置^{あんち}いたします。このお位牌に大きな意味があるのです。

仏教で説かれる「三界^{さんがい}」は即ち、全ての世界。「萬霊^{ばんれい}」は全ての存在。私たちのご先祖様のみならず、お会いしたことも無い、名前をお聞きしたことも無い、遠い所にいらっしゃるかも知れない、そんな全てのお亡くなりになった方々への供養を行うのです。

先の東日本大震災の際、多くの方々がお亡くなりになりました。私たちは、縁^{えん}のある身内^{みうち}の方だけでなく、全くご縁の無いと思われていた多くの方々に、自然に心を寄せ、我が事のように悲しみ、涙しました。

その大きな、もともとそなわっている仏さまの心^{じひしん}、慈悲心を持って、私たちは「三界の萬霊^{さんがいばんれい}」、つまり、ありとあらゆるすべての存在に供養するのです。その、大いなる供養の功德^{めぐ}を廻らして来たのは、法要を代々^{だいたい}行ってきた私たちのご先祖様でもあるのです。その慈悲の功德が私たちへの大きなつながりとなり、さらに私たち自身だけでなく、ご先祖様にも廻らされてくるのです。

この、一つの大きな輪の様な、あるいは丸い地球の様な、大きな縁起^{えんぎ}の教えの世界の中にあることに、私たちは時々気付かされることがあります。

予期しない人に出会ってお世話になったり、亡き方との遠い昔のお付き合いを教えられたり、そんなときは「ご縁の巡り^{めぐ}あわせ」とか「ご先祖様のお引きあわせ」などといったりすることがあるでしょう。

お盆の時期には、ご馳走を召し上がることも多いことと思います。出来れば自分たちだけではなく、先ずは仏様にお供えをし、ご縁の巡り合わせに思いを馳せながらより多くの方と共に召し上がって頂くと有り難いものです。

それが、施食会（せきじえ）という法要が表す慈悲の心にもつながるのです。

— 終 —